

やればできる！積極的な姿勢を育てる方法

ジュリー・ホーン女史

チア・にっぽん旗揚げセミナー（2000年）で参加者の魂を揺さぶり、その後の日本のムーブメントに用いられた。チア・コンベンション2002、2007主講師。世界最大規模のホームスクーリング・コンベンションであるチア・カリフォルニア・コンベンション前部長&理事。80年代から3人の子どもをホームスクーリングで育てた。チア・カリフォルニア創設メンバー。チア・にっぽん理事。コンベンション2016に9年ぶりの来日決定。



「自分はきっと失敗する」という信念？

ジャッキーは、クリエイティブで、社交的で、エネルギッシュなティーンです。彼女の笑い声は、周りの人も笑顔にします。ところが、そんなジャッキーも新しいことに挑戦するとなると、急に怖気づいて「それは苦手」「無理」「全然分からない」と、時に涙を流し、たくさんの不安や不平を並べ、腰が重くなるのです。励まされ、意を決して、実際にチャレンジしてみるのですが、少しやってみても続けることができず、「ほらね、できないって言ったでしょ」とすねて、ふくれ出し、「自分には無理！」というネガティブな固い信念を主張して終わってしまいます。

自分はきっと失敗する——ジャッキーは過去の経験からそう信じ込んでいました。努力なんて時間の無駄だし、全然楽しくもない、自分には才能も知恵もないことは分かり切っている、と。ジャッキーにとっては、失敗するよりも諦めて、やらずに終わるほうが痛みを味わうこともなく、楽で、居心地が良かったのです。

その時、親がしてはならないこと

皆さんのお子さんが、どうやって歩くことを覚えたか思い出してみてください。何度も何度も転んでは起きながら、遂に初めの一步を踏み出したのではないのでしょうか。何かを学ぶためには、時には痛みというプロセスを通らなければならないこ

とを私たちは知っています。

幼い子どもが立ち上がろうとした時に、転んでほしくないからといって抱き上げて運んであげたりはしないでしょう。ところが、他の分野になると、私たち親はまさにそれと同じことをしてしまうのです。

やればできるという姿勢、失敗したらもう一度立ち上がることを子どもたちに教えられたなら、本からの学びだけではなく、実体験として、人生のあらゆる場面で大いに役立ちます。聖書には、どんな困難・苦難にあっても、忍耐、勤勉、喜びや感謝にあふれた態度を持つこと、そのような知恵と模範と励ましにあふれています。聖書は、パウロのようにどんな境遇にあっても満足し、試練の時に耐え忍び、こう言えるようになることを約束しています。「私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にある道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています」（エペソ4：12）。

困難を積極的に捉える聖書の知恵と、困難の背後には神の約束と計画があることを、できるだけ早い年齢から教え始めるのが良いでしょう。ただ、子どもたちに教える時に、私たち親の態度を改めるところからスタートできます。

皆さんは、子どもがちょっとした困難に直面したり、何かで困っていたりしたら、急いで飛んで行き、助けることはありますか。もしそうだとしたら、子どもたちの可能性を信じていないことを伝えているのと同じです。何か罪を犯しそうに

なったり、大きな危険が迫ったりしている時は別です。そのような場合は除いて、日常生活における困難・苦難を子どもが体験している時、私たち親は、子どもたちの問題解決能力や決定力、忍耐力を信じるべきではないでしょうか。

基本的な3つのステップ

①子どもの才能を知る

子どもたちの心に「やればできる・努力すればできる」という姿勢・確信を養っていく環境作りは、難しくもなければ複雑でもありません。次に示す基本的な3つのステップを踏むことで、忍耐力、決定力、経験力、創造力を育て上げていくことができるでしょう。

子どもが才能を持っている分野を知ること

神さまは私たち1人ひとりに、神の目的に応じてユニークな才能を与えて下さっています。その子どもたちの特別な才能を発見してあげることが大切です。子どもをじっくりと観察し、何か特殊な技能を持っていることに気付いたら、子ども自身がその技能に気付けるように褒めてあげて下さい。「よくやったね」とか「まあ、きれいな字」といった一般的な褒め言葉では十分ではありませんし、建設的な言葉とも言えません。例えば、「あなたの字は、全部同じ大きさと書いているし、行と行の間もバランスが良くて整っているわね。だから、とっても読みやすく、見た目もきれいよ」。このように、どこがどのように良いのかを具体的に観察して評価することで、子どもたちが後から自分の作品を見て評価する時の助けとなります。

子どもの弱点は、 親が成長するチャンス

何をやってもうまくいくスーパースターのような子どもはいません。どの子にも得意ではない分野がありますし、なかなか簡単にできないこと、ほどほどのレベルに仕上げるのにかなりの作業を要する分野もあるでしょう。

しかし、こうした弱点を見て、子どもにがっかりしたり、イライラしたり、悲しんだり、見下し

たり、怒ったりしてはいけません。その代わりに、こうした弱点もまた神のデザインであると捉えて、私たち親の忍耐力、勤勉さ、問題解決の能力を磨くチャンスとすべきです。さらに、親の謙虚さ、また子どもたちや他者への優しさを養うためのものなのだ、という姿勢で臨むことが必要です。

他人の成功を喜ぶこともまた、重要なライフスキルの一つです。それは、キリストにあって、本来、一つの体としてつながっている私たちが目指す究極の目標、キリストにあってみな一つであることを学ぶ訓練ともなります。子どもたちが他者の長所を認めるようになり、さらに自分自身の弱点と長所にも気が付いたなら、その時こそ、キリストのからだの成り立ち、1人ひとりが、キリストにあって一つである真実について、また神がご自身の目的に応じて私たち1人ひとりにユニークな賜物をお与えになったことを教え始めることができます。

②問題解決能力を身につける

子どもたちが問題解決能力を身につけるよう訓練する

子どもたちが簡単なことを成し遂げた時に褒めるよりも、問題を解決することに価値があると励ましてあげましょう。親は、子どもたちに与えられている神からの特別な賜物、つまり、何の努力をしなくても物事を達成できる天性の賜物を知りたがりです。しかし、それと同じくらい大切なことは、子どもたちが葛藤している時に決断力と忍耐力を養うように促すことです。困難な仕事に粘り強く取り組む姿勢は、とりわけ重要なスキルです。子どもが助けを求めてきても、最初から助けようとはしないで下さい。子ども自身がそれをやり遂げるのに必要な場所と時間を与え、子どもの根気強さを養いましょう。早く成功を遂げたことを褒めるのではなく、それまでの努力をたたえましょう。そしてここでも、目指すべきスキルをはっきりと伝えて下さい。例えば、「あなたの決断力に感動したよ!」「とっても落ち着いていたし、新しいアイデアに一生懸命取り組んでいて、とても良かったわ」と声を掛けるのもいいと思います。問題に取り組む時間が長ければ長いほど、子どもの問題解決能力や、フラストレーションの管理能力、忍耐力は鍛えられていきます。問題に取り組

むプロセスの大切さを伝え、褒めて励ましてあげることが大事です。

子どもたちが自分で困難な課題に取り組むなら、苦勞もするでしょうし、フラストレーションもたまるでしょう。でもこの時こそ、忍耐という名の筋力を鍛える絶好のチャンスです。途中でやめさせたり、諦めさせたりしないで下さい。ミスをした時は、失敗と捉えるのではなく、学びの機会と捉えましょう。諦めた時だけが、失敗となります。子どもが「もうできない。難しすぎる」と泣いたり不平を言ったりした時は、怒るのではなく、知恵と励ましを与えましょう。すべての回答が瞬時に与えられることを望むよりも、このように自問自答するように子どもたちに教えましょう。「ゴールは?」「何か違うことはできないかな」「最初の一步はどうだった?」「次に何ができる?」。これらは、子どもが助けを求めてきた時に、問題解決に導くための質問例です。さらに「あなたならきっと分かるよ」「この問題に一生懸命取り組んできたんだから、大丈夫、必ず解決策を見つけられるよ」と建設的な言葉を掛け、自信を持たせてあげましょう。

③自由にやらせてみる

子どもが「自分一人でする」と思っていることは、そのままやらせてみる

幼い子どもは、自分の力を過大評価するものです。まだ自分の能力を正しく評価できませんし、自分の力に限界があることも理解していません。そのため、実力以上に自分にはできると思い込みがちです。

例えば、3歳の子どもが自分で靴の紐を結ぶと言いつけるなら、実際にはできなくても、とにかくやらせてみて下さい。そうした個人的な興味が、子どもにやる気を起こさせ、困難やフラストレーションを克服する力となります。こうやって健全な自信を身につけさせていくのです。子どもが何かで苦勞していても、急かさなくて下さい。子どもがイライラしていたら、「本当によくやってるね」「あなたの決断は良かったと思う

わよ」と励ましの言葉を掛けましょう。子どもはとて敏感です。親の表情、声のトーン、ボディランゲージは、言葉以上に多くを物語ります。

もちろん、中には許可できないこともあります。いくら本人ができると言っても、幼い子どもが車を運転したり、高い所からジャンプしたりすることは、決して許可できないことです。

親のプラン・視点と励まし

子どもが果敢に挑戦できるチャンスを、毎日与えてあげましょう。パズルやクラフトなどの制作は、特に良い作業だと思います。そうは言っても、学科の勉強や家事の分担、どんな体験に挑戦するかを親が決める際に、それが子どもにできる範囲内であることを確認して下さい。子どもの興味や関心があることに挑戦させることが基本ですが、子どもが必ず失敗しそうな状況を設定することはお勧めしません。一度に少しだけ新しい段階に挑戦させ、子どもが新しい物事を十分マスターできた段階で、さらにステップアップしていきます。

親が子どもの長所を見つけ、励まし、忍耐力を養うよう助け、フラストレーションを管理できるように訓練し、問題解決能力を育てるなら、子どもは人生で打ち負かされることなく、神さまから与えられた人生の目的を果たし、方向性を見定め、喜んで進んでいく準備ができるでしょう。

